

②7 両国リバーセンター整備事業

受賞機関 東京都 建設局 河川部、東京都 江東治水事務所

キーワード スーパー堤防、防災船着場、PPP、にぎわい創出

全建賞審査委員会の評価ポイント

スーパー堤防と周辺複合施設の一体的整備。堤防整備の段階から水辺の賑わいを創出することも視野に入れて事業を実施しており、堤防天端にレストランと連携してテラスを設置したり、防災拠点となる船着場を平時から開放する等、治水と防災を取り入れたまちづくりや観光振興、地域活性化を図っている点が評価された。

1. はじめに

隅田川沿いに位置する両国地区は、両国国技館や江戸東京博物館等の施設が立地し、歴史・文化に係る観光資源が集積している。また、幹線道路や複数の鉄道駅からのアクセスが容易であり、水運と陸運の交通結節点として高いポテンシャルを有している。

こうした地域特性を活かし、まちと水辺を結ぶ拠点、災害時の輸送拠点、舟運観光の拠点として両国リバーセンター整備事業を進め、令和2年11月に全面開業した。



両国リバーセンター

2. 事業の概要

両国リバーセンター整備事業では、ホテルやレストラン、水上バス待合所、子育て支援施設等の機能を有する複合施設と、スーパー堤防及び防災船着場の整備を行った。

複合施設の整備にあたっては、都の河川事業において初めてPPPを活用し、施設の整備・運営を行う民間事業者を公募・選定した。

また、施設と一体的にスーパー堤防を整備することで、地震に対する安全性を高め、まちと水辺をつなぐ一体感のある空間を形成した。スーパー堤防の修景は、水辺空間におけるイベント等の利活用に配慮して、人が座って

佇むことができるよう階段状の構造とし、デザインは複合施設の外装と調和を図った。

併せて、災害時に物資輸送や移動経路ネットワークの拠点となるよう、既設の防災船着場に加えて、隅田川の支川の航行が可能な小型船舶が利用しやすい防災船着場を増設した。



施設と一体感のあるスーパー堤防

3. 事業の成果

PPPの活用により、民間事業者の資金及び創意工夫を導入して施設を整備することができた。複合施設内にテナントとして入居している水上バス待合所と子育て支援施設は、民間事業者との間で地代と建物賃料を相互に支払うことで、実質的に行政側が負担することなく、公共施設をリニューアルした。

2箇所に増設された防災船着場も平常時に有効活用されており、浅草やお台場へ向かう定期便や、各種イベント便が就航し、舟運の拠点としてにぎわいを創出している。

さらに、河川敷地占用許可準則の特例を活用して、スーパー堤防上に、民間事業者が複合施設内のレストランと連続する“かわてらす®”を設置し、水辺で飲食が楽しめる空間が出来上がった。

4. おわりに

両国リバーセンターの整備により、多様な施設が融合することで相乗効果が生み出された。防災力が強化されるとともに、スーパー堤防や隅田川テラスを活用したマルシェや、乗船体験等の地域のイベントが開かれる等、人々が集う、新たな水辺の拠点が創出された。

今後も地域と連携し、より一層のにぎわいを創出していきたい。